

### 第3回 文化創造都市高岡推進懇話会における委員の発言要旨

日 時：平成26年2月27日（木） 午後2時～午後4時

会 場：高岡市生涯学習センター 6階特別会議室

出席者：【委員】駒澤 義則、晒谷 和子、新谷 秀夫、武山 良三、蓑島 毅

【プロモーション委員】松原 博

【当局】岡田部長、鶴谷課長

【事務局】鍋山室長、中嶋主査

#### 1 開 会

#### 2 委員長あいさつ

#### 3 審 議

##### (1) 文化創造都市高岡プロモーションチームの取り組みについて

<松原プロモーションチーム委員長より5コンセプト「知る、つなぐ、体験する、楽しめる、子ども」等について説明>

##### 【意見交換】

委員長：

コンセプトの中では、「知る」がもっとも大きなキーワードと考える。来場者を増やすためには、いかに知らせるかが最も大切。

「知らせる」ということでいえば、ボランティアが情報を発信し続けるのは負荷が大きいので、メディアの方々に担ってもらうなどの切り口があっても良い。一方、そういったことを行政が行う場合は、それを行うセクションが必要であろう。

委 員：

コミュニケーションから相互の取り組みがつながる視点、情報の棚卸など、「知る・つなぐ・楽しめる・体験する・子ども」というキーワードに込められていると思う。中でも、特に大切なのは「知る」ということかと思う。この5コンセプトを図示するならば、これがセンターに来るものかもしれない。また、市内では様々な取り組みが行われているが、それらを全体的な視点からとりまとめることができるのは行政の役割かと思う。

委 員：

文化創造とは新しい文化を創るということかと感じていたが、観光協会や既存イベン

トの役割分担等の内容が多いように感じる。もっと進歩的な取り組みで高岡の文化度を高めることも考えてもよい。プロモーションチームの若い人たちが思い描いている高岡を良くしようという熱意を受け、懇話会としては一目でわかり、自ら進んで来て頂けるまちにするにはどうすればよいかという意見を出すべきと思う。

委員：

金沢市は対外的な売り込みのために60人の職員が取り組んでいると聞く。周知については、事前告知はどこも一生懸命行っている。知らせるには、まず体制づくりが必要と思う。5つのコンセプトで言えば、最初の2つのコンセプト「知る」、「つなぐ」が大切と思う。

委員：

富山県は東西文化の接点であり、様々なものが混在しているからこそそのエネルギーがある。利長、利常の時代から高岡は素晴らしい技能をもって続いている。一方どんなものも革新なくしては継続しないと思う。告知の点においては、広報統計課の動きとも連動してはと思う。

委員：

「知る」をセンター据え、取り組む必要があるかと思う。そのためには「興味ももてる形」にして周知する必要もある。知らせ方も含めて考える必要があると思う。

委員：

高岡は多くのものが残っている。市電は希少性も高い、歴史や伝統も古いものがある。自己PRを上手く行う必要がある。

委員：

先日NHKの全国放送で願い道駅伝を扱っていた。こういった先進的な取り組みもある。いかにPRするかを考える必要がある。

委員：

今回、提案書という形で様々な内容を提出するが、どのような体制を設けたとしても、既成事実として設置するだけでは予定調和となってしまう無意味と思う。そのためにも積極的な方をセクションの構成員に加えることを考えないといけない。

## (2) 提言書について

委員：

提言書について意見を頂くまえに、それぞれの提言を理解することが必要と思う。

<各委員の提言内容について紹介>

ビジョン作成は庁内のコンセンサスを得ることが重要であり、さらにそれを運用する  
というところまで進めてもらいたい。そういう体制が整備されることを懇話会としては  
共通提言へ盛り込みたい。

委員：

産業、歴史・文化の両輪をどのように繋がっていくかがわかるといい。また、高岡文  
化創造大学などと銘打って、公開講座を複数回実施していくことも面白い。

委員長：

委員の皆様には幅広い意見を頂きありがとうございました。

(「今後のスケジュール」の説明。次年度は懇話会でビジョン策定の審議を行う旨説明)

事務局

以上をもちまして本日の会議を終了いたします。ありがとうございました。

終了 16:00